

メバチ 大西洋

Bigeye Tuna, *Thunnus obesus*

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

生物学的特性

- 最大体長・体重：尾叉長約 2.0 m・約 200 kg
- 寿命：10～15 歳（17 歳の可能性もある）
- 成熟開始年齢：3 歳（120 cm で大部分が成熟）
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温 24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：特定の海域・時期の報告はない
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他のマグロ類よりハダカイワシ・ムネエソ等の中深層性魚類が多い
- 捕食者：大型のマグロ・カジキ類、サメ類、歯鯨類

利用・用途

刺身、すし、缶詰等に利用されている。

漁業の特徴

本種は主にはえ縄、竿釣り、まき網によって漁獲されてきた。主として成魚を漁獲するはえ縄が漁獲の大部分を占めてきたが、大西洋は他の大洋と異なり、従来からまき網や竿釣りによる漁獲が比較的多い。まき網が人工浮き魚礁 (FAD) 操業を開始した 1991 年以降、小型魚漁獲が増加した。

漁獲の動向

総漁獲量は 1994 年に過去最高の 13 万トンに達したが、その後徐々に減少して、2005 年以降は 6 万～8 万トンで推移し、2019 年の総漁獲量は 7.4 万トン（予備集計）で 2016～2018 年に引き続き総漁獲可能量 (TAC)（6.5 万トン）を大きく超過した。2019 年現在、はえ縄の漁獲は全体の約半分弱（46%）であり、まき網の漁獲（37%）が近年増加傾向にある。メバチの平均体重は、はえ縄で 45～60 kg、竿釣りで 20～30 kg、まき網で 3～4 kg である。

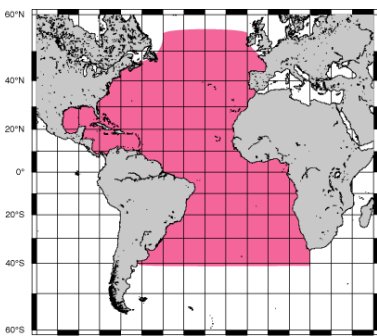
資源状態

ICCAT の科学委員会は、2018 年に資源評価を実施し、SS3 による結果を管理勧告に用いた。結果として、最大持続生産量 (MSY)：7.3 万～8.0 万トン（中央値 7.6 万トン）、 F/F_{MSY} ：1.14～2.12（中央値 1.63）、 SSB/SSB_{MSY} ：0.43～0.80（中央値 0.59）と推定され、資源状態は乱獲状態及び過剰漁獲とされた。2018 年時点の TAC（6.5 万トン）を維持した場合、2033 年に資源が乱獲状態及び過剰漁獲でなくなる確率はおよそ 44%とされた。

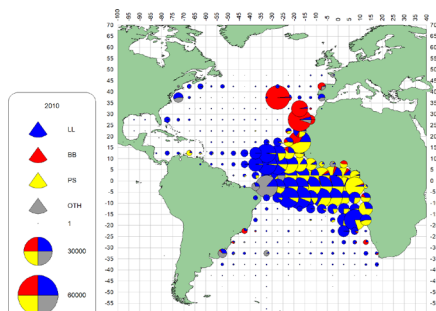
管理方策

2015 年の ICCAT 年次会合において資源管理措置を決定した（2016 年一部改訂）。漁獲能力制限として、主要漁業国のはえ縄及びまき網における全長 20 m 以上の漁船における年間操業隻数が制限されている。毎年の TAC は 6.5 万トンに設定し、各国に漁獲枠が割り振られている。メバチ・キハダの幼魚が多く生育するギニア湾における FAD を含めた付き物操業の禁漁期、禁漁区域は、2015 年の年次会合で変更され、若干拡大（南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域において、1 月 1 日～2 月 28 日；2017 年 1 月から適用）された。同禁漁期／区で操業するまき網や竿釣り船には、引き続きオプザーバーの乗船が義務付けられている。また、FAD 数を 1 隻当たり一度に 500 基までとする。2002 年 4 月から、統計証明制度（輸入には漁業国の証明書が必要）が開始されている。2019 年の ICCAT 年次会合において、熱帯まぐろ保存管理措置が改定され、新たな TAC は 2020 年に 62,500 トン、2021 年に 61,500 トンとされた。また、2020 年には 1～2 月の 2 ヶ月間、2021 年には 1～3 月の 3 ヶ月間、大西洋全体において FAD 操業の禁止を決定した。FAD 数は、1 隻当たり一度に 350 基（2020 年）及び 300 基（2021 年）までとした（いずれも、2022 年以降は今後決定される）。

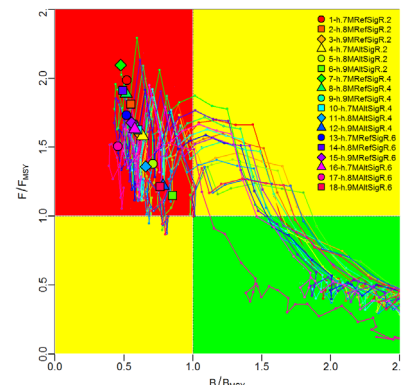
メバチ（大西洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	7.3 万～8.0 万トン 最近 (2019) 年：7.4 万トン 平均：7.7 万トン (2015～2019 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	0.9 万～1.2 万トン 最近 (2019) 年：0.9 万トン 平均：1.1 万トン (2015～2019 年)
管理目標	MSY：7.2 万～8.0 万トン (中央値 7.6 万トン) (2018 年の漁獲量：7.8 万トン)
資源評価の方法	統合モデル (SS3) による解析：はえ縄漁業 CPUE、及び漁獲動向等により水準と動向を評価
資源の状態	$F/F_{MSY} = 1.14 \sim 2.12$ (中央値 1.63)、 $SSB/SSB_{MSY} = 0.43 \sim 0.80$ (中央値 0.59)
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> ・TAC (6.5 万トン：2019 年、6.25 万トン：2020 年、6.15 万トン：2021 年)、主要国の漁獲枠、漁船隻数枠の設定 ・ギニア湾 (南緯 4 度、北緯 5 度、西経 20 度、アフリカ大陸で囲まれた海域) における 1 月 1 日～2 月 28 日 (2016～2019 年) もしくは大西洋全体における 1 月 1 日～2 月 29 日の 2 ヶ月 (2020 年) ないし 1 月 1 日～3 月 31 日の 3 ヶ月 (2021 年) の FAD 操業禁漁期設定、FAD 数制限 ・統計証明制度 ・オブザーバー乗船 (まき網、竿釣り)
最新の資源評価年	2018 年
次回の資源評価年	2021 年



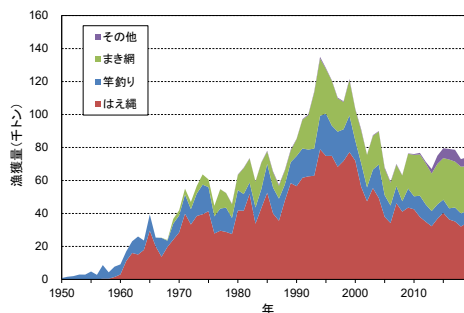
大西洋におけるメバチの分布



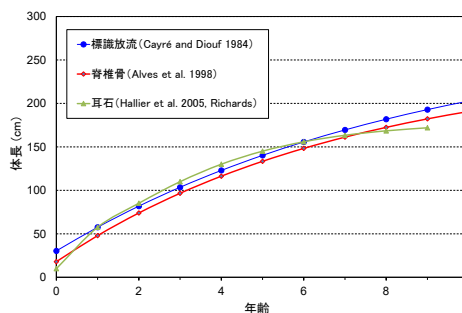
主要なまぐろ漁業による大西洋におけるメバチの漁獲分布 (2010～2017 年)
青：はえ縄、赤：竿釣り、黄：まき網、灰：その他。凡例の丸は上から 30,000 トン、60,000 トン。



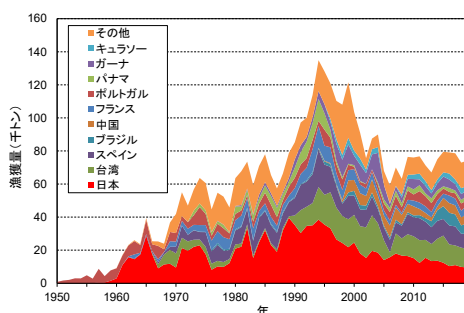
SS3 の 18 シナリオで推定された SSB / SSB_{MSY} と F / F_{MSY} の経年的プロット
いずれのシナリオにおいても最新年 (2017 年) の資源状態はレッドゾーンにある。



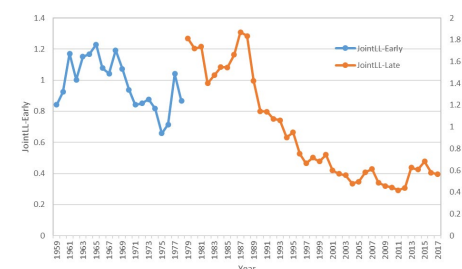
大西洋におけるメバチの漁法別漁獲量 (1950～2019 年)



標識放流、脊椎骨及び耳石から推定されたメバチの成長曲線



大西洋におけるメバチの国別漁獲量 (1950～2019 年)



資源評価ベースモデルに用いた資源量指数 (日本・韓国・米国はえ縄複合 CPUE、1959～2017 年)